

特別講演-2：女性研究者の養成に関わる取組みと全国ネットワーク

東京農工大学 副学長／女性未来育成機構長 宮浦 千里

講演要旨

ダイバーシティについて議論する際、女性研究者の比率は重要な要因である。日本における女性研究者の比率は16.2%であり、OECD諸国の中で最下位となっている。特に、科学技術分野における女性研究者の活躍推進が課題となっている。東京農工大学は農学と工学からなる理系国立大学であり、第3期中期目標のビジョンとして「世界が認知する研究大学へ」を掲げ、世界に貢献する科学技術系大学を目標に、教育・研究・人材養成・国際活動に取り組んでいる。女性研究者の比率は、全国的に理学・農学・工学の分野で特に低いことが指摘されているが、本学ではこれまでに過去10年間にわたって、農学・工学の女性研究者のライフイベント支援・環境整備・採用推進・研究力強化に取り組んできた。その成果として、女性研究者や女子学生の飛躍的増加につながっている。

文部科学省は平成18年度に補助事業「女性研究者支援モデル育成」を開始以降、「女性研究者養成システム改革加速」、「女性研究者研究活動支援事業」、「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」を実施してきた。本学では、女性研究者支援事業を平成18年度より継続的に実施し、現在は平成28年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）「女性研究者の活躍推進を実現する“関東プラットフォーム”の創生と全国展開」の採択を受け、共同実施機関の東京外国語大学、国際農林水産業研究センター、首都圏産業活性化協会と連携して、女性研究者の上位職への積極登用に向けた取組み等を行っている。

また、平成30年度、文部科学省は全国的なダイバーシティネットワークの構築を目的に、文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（全国ネットワーク中核機関（群））を新たに立ち上げ、幹事機関である大阪大学と協働機関である東京農工大学および日本アイ・ビー・エム株式会社が申請した取組が採択され、事業を実施している。本事業では「全国ダイバーシティネットワーク組織」および「全国ネットワークプラットフォーム」を二つの柱として、女性研究者を取り巻く研究環境整備や研究力向上に取り組む機関をつなぐ全国ネットワークの構築を目指している。「全国ダイバーシティネットワーク組織」では、全国を北海道、東北、関東・甲信越、東京、東海・北陸、近畿、中国・四国、九州・沖縄の8ブロックに分けて幹事大学を設定し、各幹事大学が一同に集まる“全国ネットワーク組織幹事会”を開催し、各地域の特徴的な取組や課題等について全国的な情報共有を推進している。さらに、「全国ネットワークプラットフォーム」では幹事機関である大阪大学が中心となり、ウェブサイトOPeNeDを基盤とした全国ネットワークを構築し、取組動向のデータ収集や分析、グッドプラクティス等の情報発信を行い、全国的な普及・展開を図っている。これらの取組みを強化することにより、全国の女性研究者の増加と活躍推進を目指している。